

## 生活ケアの専門雑誌「ブリコラージュ」に 「そらいろデイ」が紹介されました

そらいろデイの活動が生活リハビリ専門雑誌「ブリコラージュ」に紹介されました。「ブリコラージュ」は生活リハビリ研究所を主宰する三好春樹さんが創刊した雑誌で、生活リハビリを柱にした情報交流誌です。創刊は今から33年前。今号で277刊となります。

そらいろデイが紹介されているのは、「生活の場で看取る、を考える」という特集のコーナーです。昨年5月にそらいろデイにやってきたSさんの介護と、退院してから亡くなるまでの6日間の看取りケアについて紹介されていますので、ぜひ読んでいただけたらうれしいです。ブリコラージュ277号は、そらいろデイにありますので、ご連絡いただければ、貸し出しいたします。

ちなみに、表紙の写真は、そらいろデイの前から眺めた吾妻連峰と安達太良連峰です。



## 3.16 地震でそらいろの土蔵と石蔵がピンチ！

### そらいろ事業のちょっと先の未来を一緒に考えてみませんか

3月16日の福島県沖地震。被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。そらいろも大きな被害を受けました。漆喰壁が崩れたり、壁と柱の間がズレたり、屋根瓦や窓ガラスが割れたりしました。大きな被害を受けたのが土蔵と石蔵です。土蔵は土壁が落ち大きく傾き倒壊寸前です。亡父の蔵書約6,000冊が入っている石蔵は、二階角の石が大きく崩れ、むき出しの状態となってしまいました。

この二つの蔵は、そらいろのこれからの事業展開に欠かせないものでした。というのは、そらいろ事業の最終目的は、介護を柱にした共に支え、支えられるコミュニティを創出することです。その実現に向けて、二つの蔵をどう活用していくのが課題でした。

そらいろデイのある伊達崎地区は、市街化調整区域という50年も前に制定された都市計画法に縛られている地域です。農業と農地を守る制度ですが、現実が高齢化、後継者不在、休耕地の増加、若者離れ、過疎という地域の空洞化は現在進行形です。そんな中、そらいろデイは市街化調整区域の中の民家で、県内初の農業以外の介護事業が認められたデイサービスとして開所しました。通所介護を足掛かりに、田んぼや畑、そして蔵などを活用した、地域に開かれた介護を柱にしたコミュニティ創出に動き出そうとしていた矢先の地震でした。

地震によって倒壊の危機に瀕した二つの蔵ですが、農業と介護、高齢者と若者、都市と農村、遊びと仕事、生と死、人生と暮らしを結び付ける新しい暮らしの場として再生したいと考えています。アイデア、ヒント、なんでも結構ですので、お寄せください。多くの方々と一緒にこの地域のちょっと先の未来を考えていけたらと思います。

地震で壁が落ち、倒壊寸前の土蔵と二階の石が崩れてしまった石蔵。



お彼岸の意味は「向こう岸」っていう意味だったのがい。知らねがったない。向こう岸があるんだったらこっちの岸もあんのがい。「此岸」っていうんだと。ということは、向こう岸とこっちの岸の間に流れてるのが「三途の川」ってことになるわけだない。三途の川を渡るのもうちょっと先にすっぺ。それでは牡丹餅齡、いただきます。いや〜うまいない。

そらいろの  
風景

牡丹餅がうまい  
やっぱり

そらいろデイ  
空き情報

(令和4年3月末現在)

	月	火	水	木	金	土	日
7時間以上8時間未満 定員7人	×	○	△	◎	×	◎	休
入浴	×	○	△	◎	×	◎	

◎=十分に空きがあります。○=空きがあります。△残りわずかです。空き情報につきましては、△の場合でもご相談ください。

電話 024-582-3558 FAX024-597-6317

特定非営利活動法人そらいろ 代表理事 石幡 亮 メールアドレス:ryo.ishihata@gmail.com  
〒969-1663 福島県伊達郡桑折町伊達崎吉沼19 電話 024-582-3558 携帯 090-6470-2280